

六月三〇日

朝七時起床。稲光りと雷鳴の朝である。それでも東の窓が淡い青をのぞかせて美しい。南の窓一杯にカロラインジャスミンが生い茂り、パギラの樹も五メートル近くまで育った。亜熱帯だがこの家の中は。

十時大学。レクチャー準備。十時四〇分大学院特別講義。十二時三〇分迄。昼食後小休。十四時元研究室研修生藤田君来室。ワイクシヨップのたしか一期生であった。故郷に帰って職に就くという。幸運を祈る。もう彼も三〇才くらいだろうが、仲々、人生は酷薄だが、まだまだ五〇年くらいは生きなければならぬのだから、本腰を入れて、年齢と対面するしかないだろう。成功するばかりが人生ではないのだ。十五時博士課程カナダ系中国人SAI君の小レクチャーを聞く。三島由紀夫に対する関心をニーチエ、トーマス・マンの系譜らしきもの、そしてニヒリズムでくくろうとしているようなのだが、理解出来なかった。ニヒリズムの系譜という演題が大き過ぎるが、デビッドにしても、SAI君にしても、哲学を正面切って持ち出してくるところには好感が持てる。十五時半大学を発ち、十六時半厚生館現場。アトリ工雲島倉二千六さんと名古屋デザイン博以来の再会。厚生館一階の天井、壁に「空」を描いてもらう事になった。妹尾河童さんもお元氣らしい。近藤理事長と会食。二〇時頃世田谷に戻る。